

2021年3月期 通期

クリモトグループ決算説明資料

The logo for Kurimoto, featuring the word "KURIMOTO" in a bold, blue, sans-serif font. The letter "K" is stylized with a red horizontal bar extending from its left side.

目次

1. 2021年3月期実績
 2. 2022年3月期業績予想
 3. 株主還元・その他
 4. トピックス
- ## 参考資料

※2021年4月、事業セグメント名および事業部名を下記のとおり改称しました。
本資料では、過年度においても改称後の名称で表記しております。
なお、当改称による決算数値の変更はございません。

改称前	改称後
「パイプシステムセグメント」	→ 「ライフラインセグメント」
「鉄管事業部」	→ 「パイプシステム事業部」
「バルブ事業部」	→ 「バルブシステム事業部」

1. 2021年3月期実績

1 - 1 決算概要

(単位：百万円)

<連結>

	2020.3 実績 (A)		2021.3 実績 (B)		前年比 (B-A)	2021.3 直近予想値※ (C)		予想比 (B-C)
売上高	109,904	-	116,596	-	6,692	110,000	-	6,596
営業利益(率)	4,340	(3.9%)	4,673	(4.0%)	332	4,000	(3.6%)	673
経常利益(率)	4,392	(4.0%)	4,583	(3.9%)	191	4,000	(3.6%)	583
当期純利益(率)	2,773	(2.5%)	3,174	(2.7%)	401	2,800	(2.5%)	374
ROE	-	(4.8%)	-	(5.2%)	0.4pts	-	-	-

※直近予想値(C)：2020年5月14日公表値

売上高

官需分野での堅調な出荷に加え、民需分野にて複数の大型工事進行基準案件など、例年以上の受注残があったことなどにより、前年度比 6,692百万円の増収。

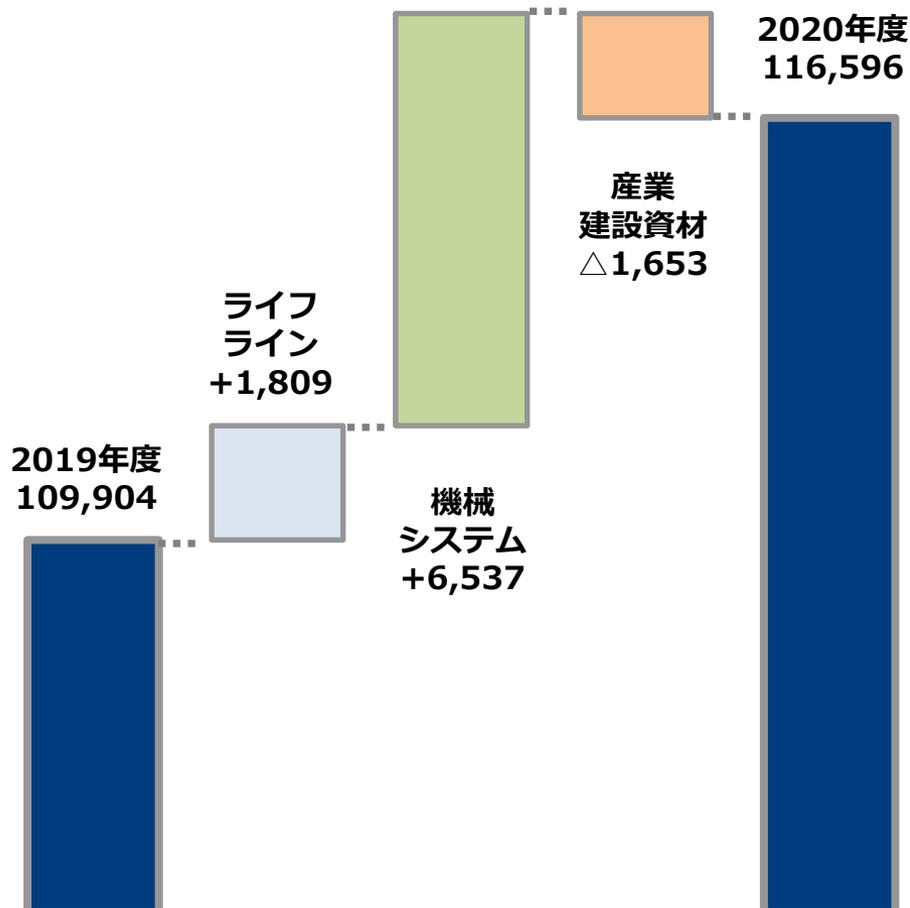
営業利益

売上高増加にともなう増益に加えて、経費削減による管理販売費の減少により332百万円の増益。

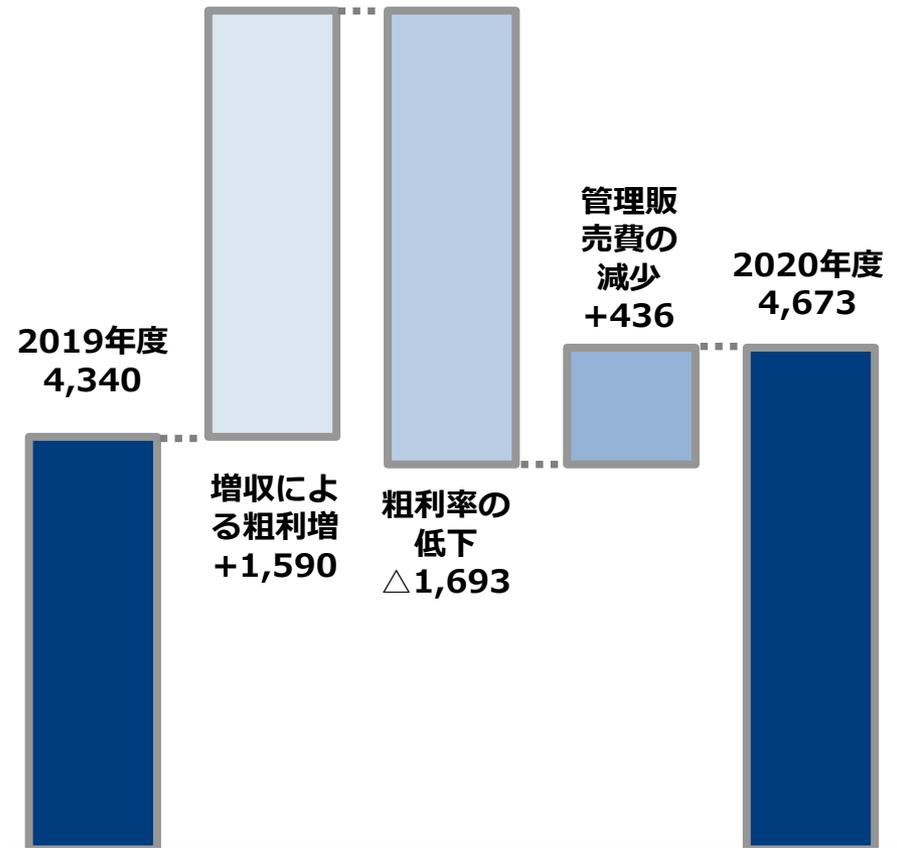
1 - 2 売上高・営業利益比較

(単位：百万円)

売上高



営業利益



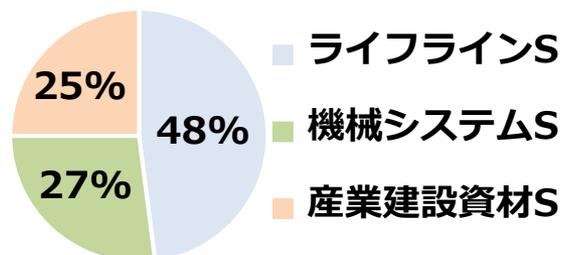
1-3 セグメント別業績

(単位：百万円)

連結		2020.3 実績 (A)	2021.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2021.3 期初計画値 (C)	計画比 (B-C)
ライフライン セグメント	売上高	54,376	56,185	1,809	52,500	3,685
	営業利益	2,338	3,087	749	1,800	1,287
	(率)	(4.3%)	(5.5%)	(1.2pts)	(3.4%)	(2.1pts)
機械システム セグメント	売上高	24,647	31,184	6,537	28,700	2,484
	営業利益	1,020	610	▲ 410	1,500	▲ 890
	(率)	(4.1%)	(2.0%)	(▲2.1pts)	(5.2%)	(▲3.2pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	30,879	29,226	▲ 1,653	28,800	426
	営業利益	1,272	1,074	▲ 198	700	374
	(率)	(4.1%)	(3.7%)	(▲0.4pts)	(2.4%)	(1.3pts)

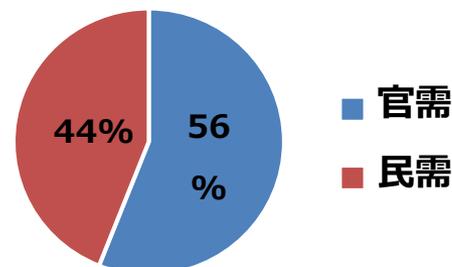
※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

セグメント別売上高構成比率



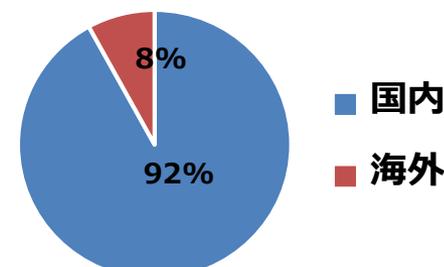
※2021.3実績 (連結)

需要分野 (官・民) 構成比率



※過去3ヶ年平均値 (連結)

国内および海外売上高構成比率



※過去3ヶ年平均値 (単体)

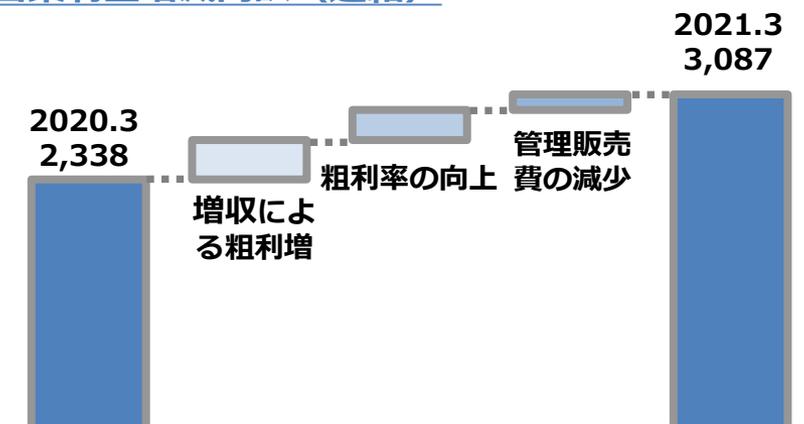
1-4 事業セグメント別概況

ライフラインセグメント

(単位：百万円)

	2020.3 実績 (A)	2021.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2021.3 期初計画値 (C)	計画比 (B-C)
売上高	54,376	56,185	1,809	52,500	3,685
営業利益	2,338	3,087	749	1,800	1,287
(率)	(4.3%)	(5.5%)	(1.2pts)	(3.4%)	(2.1pts)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

パイプシステム部門で出荷量が増加したことに加え、バルブシステム部門でも民需向けで出荷が堅調に推移したことなどで、前年度比1,809百万円増

営業利益

パイプシステム部門、バルブシステム部門の増収に加え、各種原価改善に注力したことなどにより、前年度比749百万円増

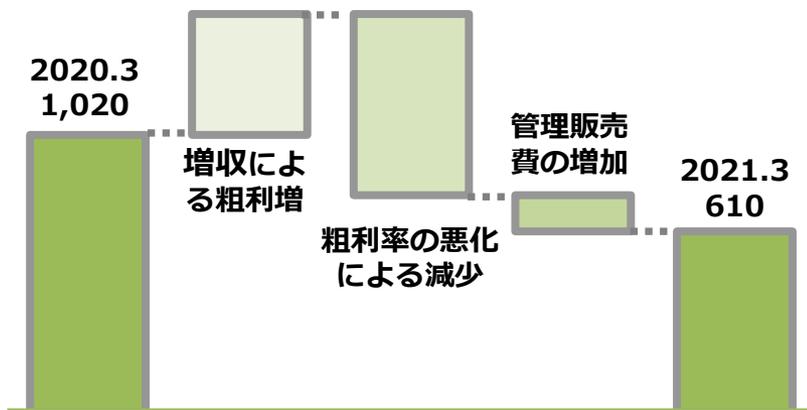
1-4 事業セグメント別概況

機械システムセグメント

(単位：百万円)

	2020.3 実績 (A)	2021.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2021.3 期初計画値 (C)	計画比 (B-C)
売上高	24,647	31,184	6,537	28,700	2,484
営業利益 (率)	1,020	610	▲ 409	1,500	▲ 890
(率)	(4.1%)	(2.0%)	(▲2.1pts)	(5.2%)	(▲3.2pts)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

機械部門で大型物件の出荷増に加え、大型工事進行基準物件の進捗が進んだことなどにより、前年度比6,537百万円増

営業利益

機械部門の一部プラント案件において追加工事が発生したことなどにより、前年度比409百万円減

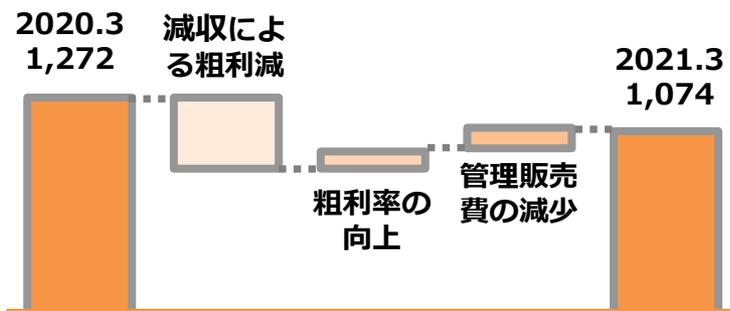
1-4 事業セグメント別概況

産業建設資材システムセグメント

(単位：百万円)

	2020.3 実績 (A)	2021.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2021.3 期初計画値 (C)	計画比 (B-C)
売上高	30,879	29,226	▲1,653	28,800	426
営業利益 (率)	1,272	1,074	▲197	700	374
(率)	(4.1%)	(3.7%)	(▲0.4pts)	(2.4%)	(1.3pts)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

化成品部門で電力向け、鉄道向け製品の出荷が堅調に推移したが、建材部門で建築工事の減少もあり空調製品を中心に出荷が減少したことなどで、前年度比1,653百万円減

営業利益

化成品部門での増収に加え、各種原価改善に努めたが、建材部門の減収の影響が大きく、前年度比197百万円減

1 - 5 財務状態の概況

<連結>

(単位：百万円)

区分	2020.3末	2021.3末	増減
現金及び預金	20,388	20,418	+30
その他流動資産	64,281	62,216	△ 2,065
流動資産 合計	84,669	82,634	△ 2,035
固定資産 合計	49,546	51,843	+2,296
資産 合計	134,216	134,477	+261
流動負債 合計	63,325	57,543	△ 5,782
固定負債 合計	12,013	11,822	△ 191
負債 合計	75,339	69,366	△ 5,973
純資産 合計	58,876	65,111	6,234
負債純資産 合計	134,216	134,477	+261

主な項目の増減

■ 流動資産

- ・ 受取手形の及び売掛金の増加 + 990
- ・ 電子記録債権の増加 + 983
- ・ 仕掛品の減少 △ 3,902

■ 固定資産

- ・ 繰延税金資産の減少 △ 1,484
- ・ 株価の上昇による投資有価証券の増加 + 3,224

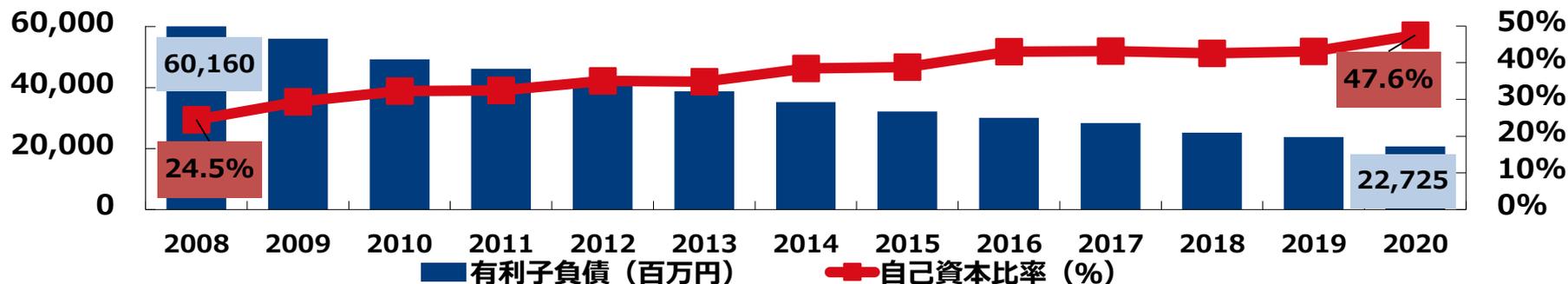
■ 流動負債

- ・ 1年以内返済予定の長期借入金の減少 △ 1,706
- ・ 前受金の減少 △ 2,069

■ 固定負債

- ・ 退職給付に係る負債の減少 △ 1,189
- ・ 長期借入金の増加 + 1,031

有利子負債および自己資本比率の推移



1 - 6 連結キャッシュフロー

<連結>

(単位：百万円)

区分（細分項目は主な項目のみ）	2020.3末	2021.3末	増減
売上債権の増減額	6,102	△ 3,942	△ 10,044
たな資産の増減額	△ 3,264	4,017	7,281
仕入債務の増減額	△ 4,636	△ 867	3,769
税金等調整前当期純利益	4,014	4,538	524
減価償却費	2,401	2,520	119
営業活動によるキャッシュフロー	5,552	5,907	355
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 4,239	△ 4,270	△ 31
投資活動によるキャッシュフロー	△ 3,951	△ 4,034	△ 83
財務活動によるキャッシュフロー	△ 2,769	△ 1,815	954
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,177	28	1,205
現金及び現金同等物期末残高	20,330	20,359	28
有利子負債期末残高	23,751	22,725	△ 1,026

2. 2022年3月期業績予想

2 - 1 2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)

連結	2021.3 実績 (A)		2022.3 予想 (B)		前年比 (B-A)	
売上高	116,596	-	107,000	-	▲ 9,596	-
営業利益(率)	4,673	(4.0%)	3,500	(3.3%)	▲ 1,173	(▲0.7pts)
経常利益(率)	4,583	(3.9%)	3,500	(3.3%)	▲ 1,083	(▲0.6pts)
当期純利益(率)	3,174	(2.7%)	2,300	(2.1%)	▲ 874	(▲0.6pts)
自己資本利益(率)	-	(5.2%)	-	(3.6%)	-	(▲1.6pts)

当社グループの主要事業セグメントは官需分野で底堅いものの、民需分野においては2021年3月期に大型工事進行基準物件の売上計上が集中した反動ならびに一部新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えによる影響があり、減収減益の見込み。

2-2 2022年3月期 業績予想 (セグメント別)

(単位：百万円)

連結		2021.3 実績 (A)	2022.3 予想 (B)	前年比 (A-B)
ライフライン セグメント	売上高	56,185	54,200	▲1,985
	営業利益	3,087	2,400	▲ 687
	(率)	(5.5%)	(4.4%)	(▲1.1pts)
機械システム セグメント	売上高	31,184	23,300	▲ 7,884
	営業利益	610	200	▲ 410
	(率)	(2.0%)	(0.9%)	(▲1.1pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	29,226	29,500	274
	営業利益	1,074	900	▲ 174
	(率)	(3.7%)	(3.1%)	(▲0.6pts)

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

- ライフラインセグメント**：需要は前期なみと予想も、前期への前倒し出荷ならびに原材料費高騰などにより減収減益の見込み
- 機械システムセグメント**：前期に大型工事進行基準物件の売上計上が集中した反動ならびに一時的な投資手控えの影響により減収減益の見込み
- 産業建設資材セグメント**：道路インフラ分野での出荷増、空調分野での回復により増収を見込むも、原材料費高騰などにより減益の見込み

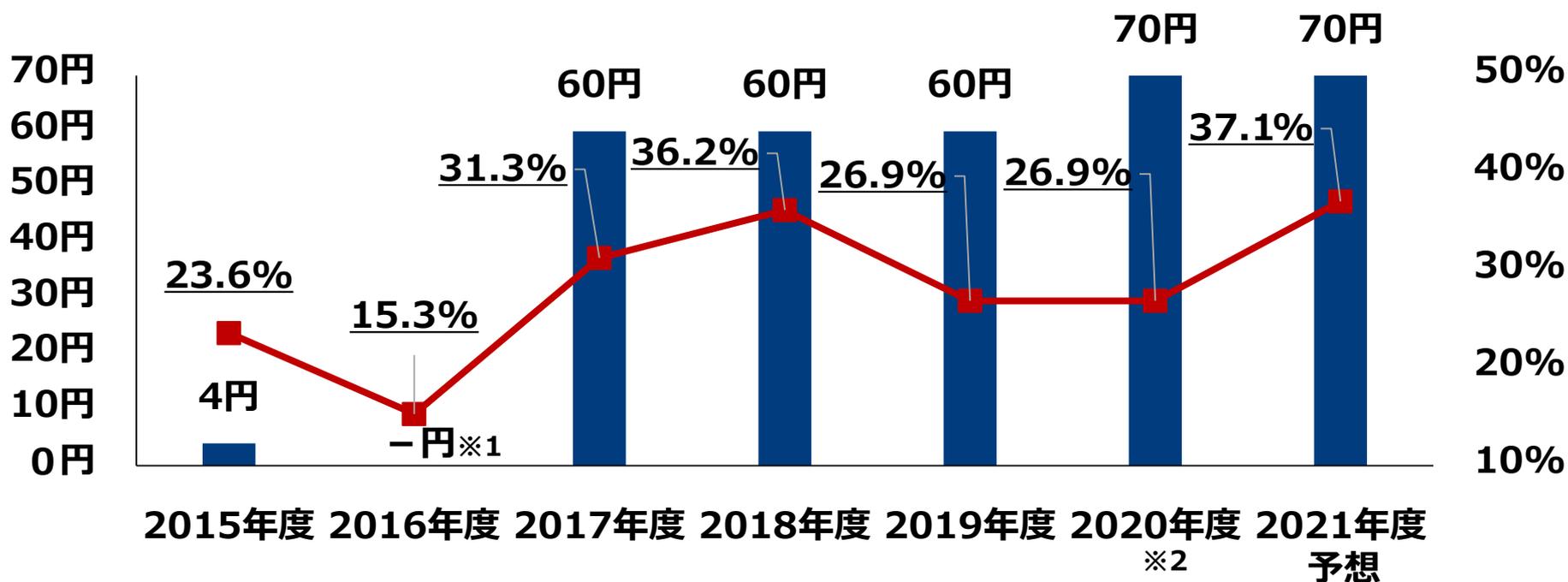
3. 株主還元・その他

3 - 1 株主還元に関する指標

成長投資とのバランスを鑑みつつ、金融市場の期待に応える株主還元を実施するべく、配当性向30%超を目指してまいります。

一株あたり配当額・配当性向推移(連結)

■ 配当額 (円) ■ 配当性向 (%)



※1 2016年10月1日を効力発生日として当社普通株式について10株を1株に併合。
2016年度の年間配当額合計は単純に合算できないため「-」として表示しています。

※2 2021年6月25日実施予定の株主総会にて決議

4.トピックス

4. トピックス

● 水道管工事施工管理システム 「photoruction water」を販売開始

生産性と品質向上を目的とした建設業向けクラウドサービス「photoruction」を利用した水道管工事施工管理システム「photoruction water」を、2021年4月20日より販売開始



● 主な機能

- (1) 配管詳細図の作成 (2) 継手のチェック
- (3) 配管日報の出力 (4) 継手チェックシート of 出力

● 共同開発・運営企業

 株式会社栗本鐵工所
(本社:大阪府大阪市、代表:菊本 一高)

 株式会社フォトラクション
(本社:東京都中央区、代表:中島 貴春)

 株式会社ミライト・テクノロジーズ
(本社:大阪府大阪市、代表:遠竹泰)

● 水道管路DB (設計・施工一括受注) 方式 受注実績

- 1.大阪府 泉佐野市
事業名称: 泉佐野市日根野浄水場他管路更新業務
契約者: 栗本鐵工所・泉佐野市水道組合
特定建設工事共同企業体
契約金額: 3.1億円
- 2.兵庫県 神戸市
事業名称: 中央(東町他)配水本管取替事業
契約者: 栗本鐵工所・港建設・安藤建設
特定建設工事共同企業体
予定事業価格: 3.9億円
- 3.奈良県 広陵町
事業名称: 広陵町馬見南配水本管布設替耐震設計・施工業務
契約者: 栗本・潮技術コンサル 共同企業体
事業規模: 約2.5億円

4. トピックス

● 主な設備投資実績



湖東工場 新建屋

竣工 : 2020年3月
 床面積 : 約4,000㎡
 投資額 : 約13億円



粉体機器実験棟「機械技術センター」

全館稼動 : 2020年5月
 延べ床面積 : 約1,620㎡
 投資額 : 約7億円

● 「健康経営優良法人2021（大規模法人部門）取得」



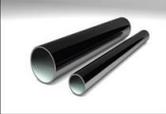
参考資料

参考資料 1 事業概要

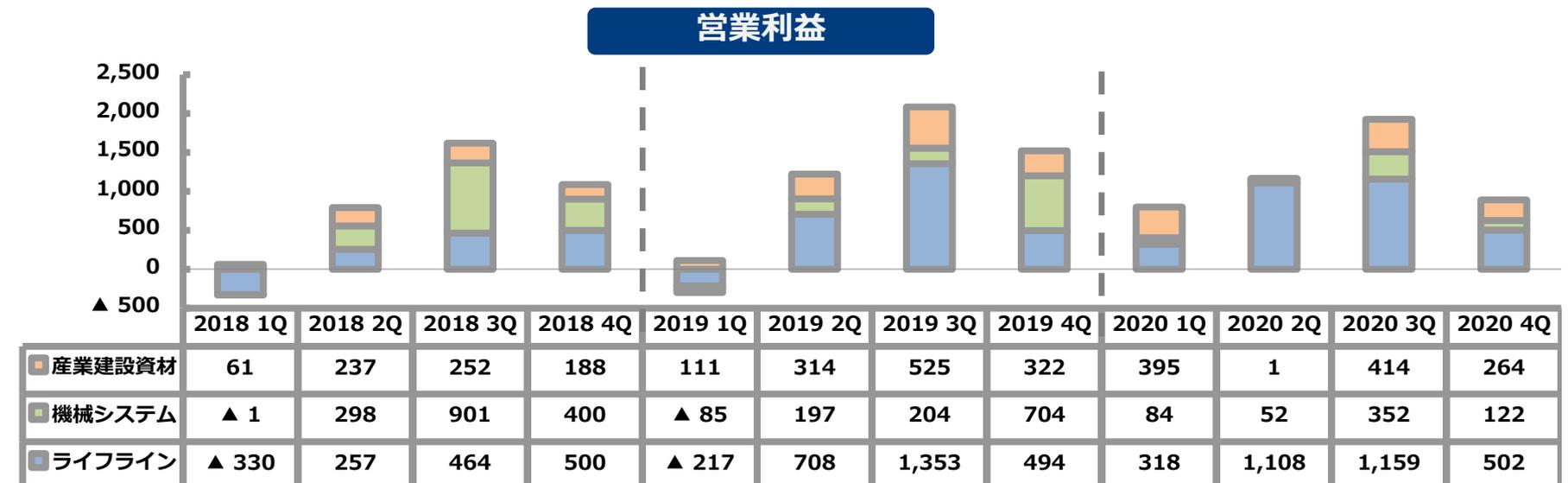
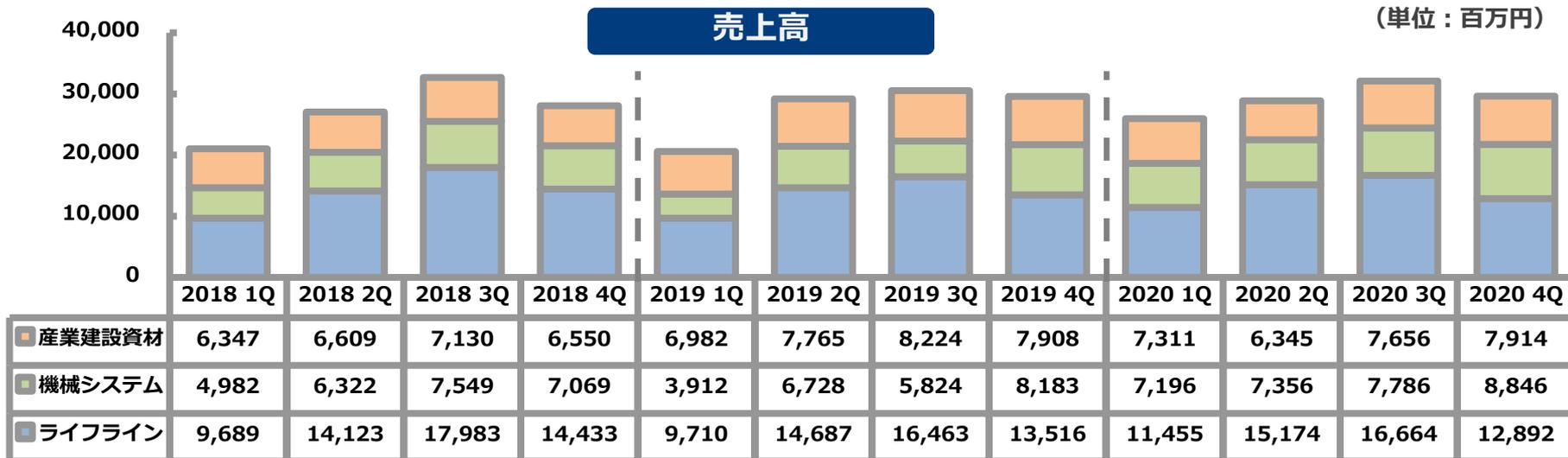
商号	株式会社栗本鐵工所 Kurimoto,Ltd.
創立	1909年2月2日（明治42年）
設立	1934年5月10日（昭和9年）
代表者	代表取締役社長 菊本 一高
資本金	311億円（2021年3月末現在）
従業員数	2,113名（2021年3月末現在・連結） 1,342名（2021年3月末現在・単独）
証券取引所	東証一部（証券コード：5602）



参考資料 2 事業部門の構成と主な製品 (栗本鐵工所)

事業セグメント	事業部	主な製品	製品例	主な需要先
ライフラインセグメント	パイプシステム	ダクタイトル鉄管類	 S50形ダクタイトル鉄管	水道事業者
	バルブシステム	水道用バルブ、産業バルブ	 ソフトシール仕切弁	水道事業者、製鉄・電力等各種プラント、ポンプメーカー
機械システムセグメント	機械システム	鍛造プレス	 ダイレクトサーボプレス	自動車関連メーカー
		粉体処理機	 KRCニーダ	カーボン、エンブラ、二次電池関連メーカー 他
		プラントエンジニアリング		各国の資源開発事業者 プラントエンジニアリング企業
	素形材エンジニアリング	耐磨耗鋳物、破碎機	 自走式 (モバイル) クラッシャ	鉄鋼、セメント、電力、砕石関連企業
産業建設資材セグメント	建材	建築資材	 スパイラルダクト	管材商社、空調設備業者、ゼネコン等
	化成品	FRP(M)製品	 FRP製フィルム巻取コア	国・地方公共団体、電力会社、ゼネコン、フィルム関連メーカー

参考資料 3 セグメント四半期別推移 (連結)

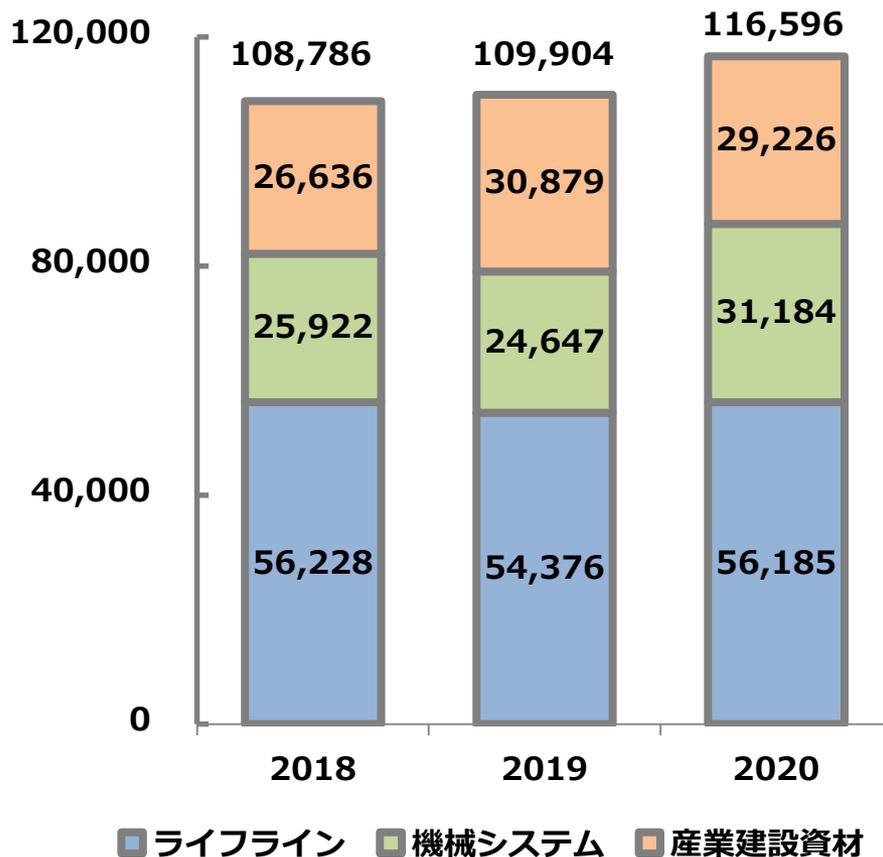


※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

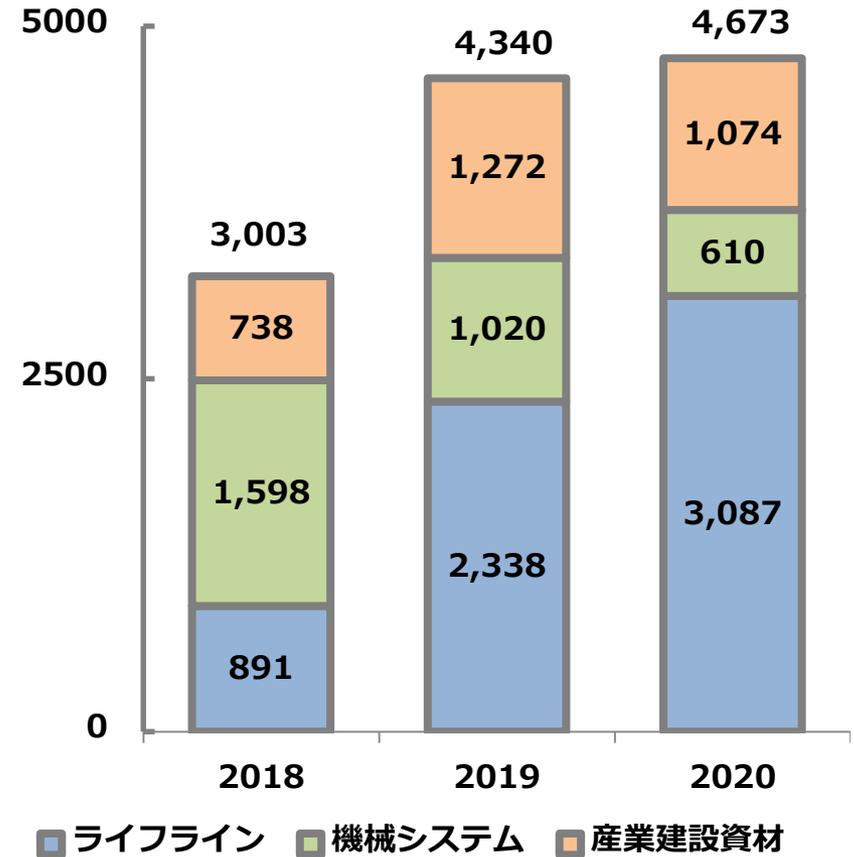
参考資料 4 セグメント別業績推移

(単位：百万円)

売上高

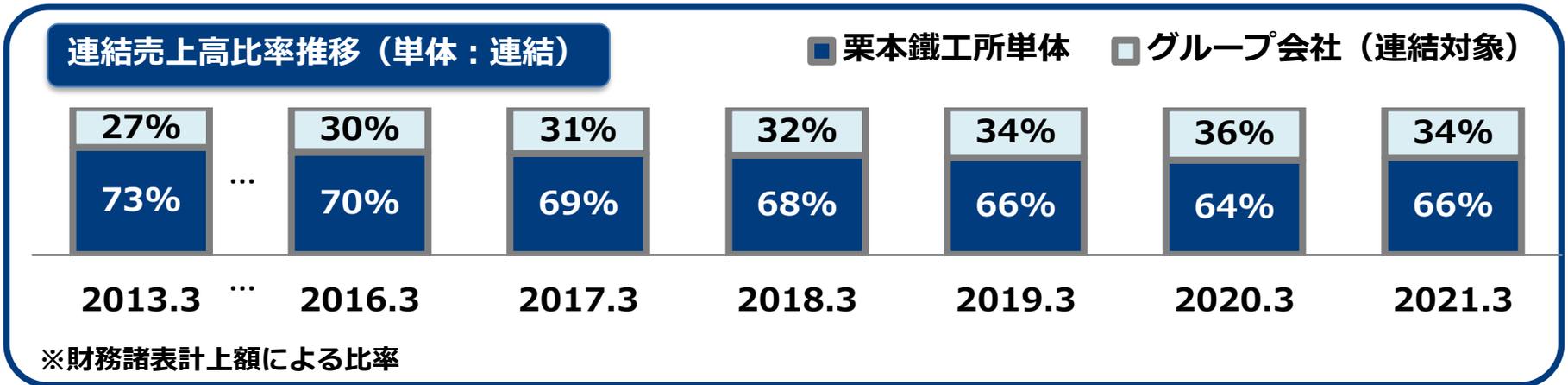
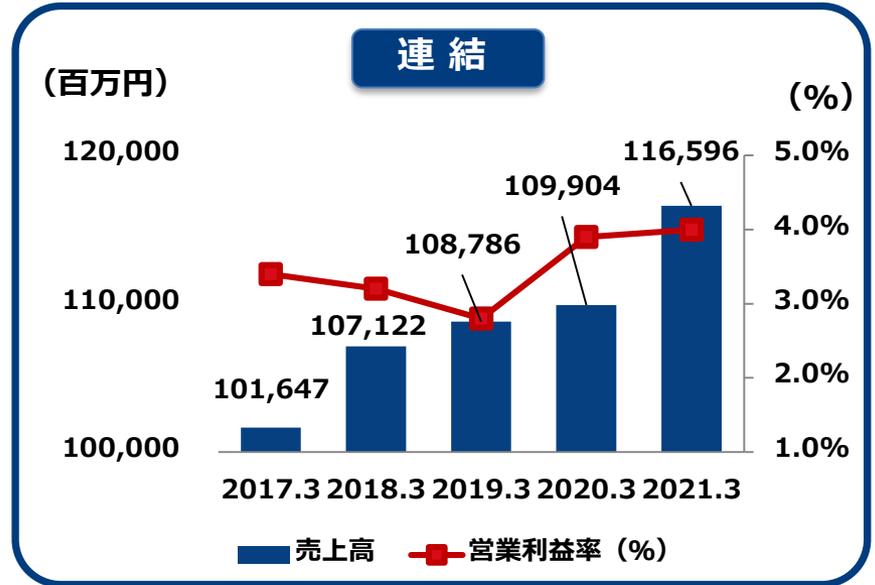
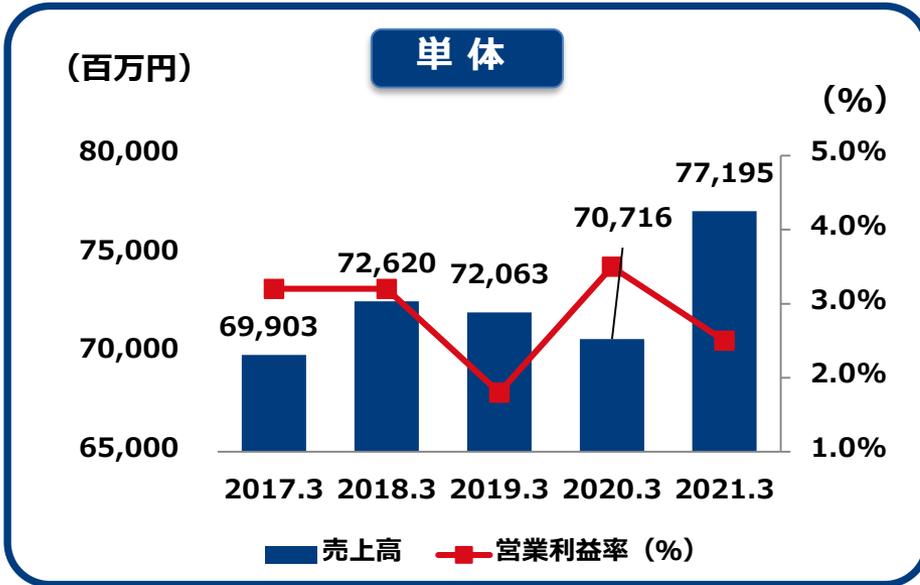


営業利益



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料 5 売上・営業利益率推移 (単体・連結)



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

問い合わせ先
株式会社栗本鐵工所 総合企画室
TEL:06-6538-7719
<http://www.kurimoto.co.jp/>

KURIMOTO